

「バイオマス・ニッポン総合戦略」の概要

「バイオマス・ニッポン総合戦略(平成14年12月27日閣議決定、18年3月31日改定)」は、バイオマスをエネルギーや製品として総合的に最大限活用し、持続可能な社会「バイオマス・ニッポン」を早期に実現することを目的として、2010年度を目途とする具体的な目標を設定し、目指すべき姿及びその進展シナリオを示したものの。

総合戦略の実施状況

バイオマス・ニッポン総合戦略に基づいて、平成15年からの6年間に於いて1府6省のそれぞれの事業として合計約1,200億円(※)が執行され、バイオマスタウン構想を策定した市町村が全国で283地区(2010年7月末現在)に達するなど、一定の成果を上げているものの、以下のような課題が存在。

バイオマスタウン構想

構想は策定したものの、取組が全く進捗していない地域や、構想に位置付けた目標を十分に達成できていない地域が多く存在。



国は計画の策定数を把握するにとどまっており、各構想の取組やその効果の検証等が不十分

バイオマスの効率的利用

未利用バイオマスの利用率は、25%の目標に対して、17%にとどまっている状況。



様々な技術を組み合わせ、バイオマスを効率的に利用するための技術体系の確立に至っていない

※バイオマス分の決算額として特定できるものを集計した数値

これらの課題を解決すべく、関係府省が連携の上、バイオマス活用推進基本計画を策定。